車が、超過ダイヤとなって連日ピストン輸送されている。羽田国際空港には米軍チャーター機が特権的に割りこんできている。首都圏の上空は、〈ブル14〉として、ベトナム軍需輸送の巨大なパイプ

学生が強力な行動

28日 民学同など全国から結集

王子野戦病院開設阻止闘争は、労学市民の結合した三・八闘争で、明確に転換点が形成され始めた。それは自治会共闘を中心とする三百五十名の学生と反戦青年委員会に結集した隊列の野戦病院ゲート前坐わり込み闘争を展開した時点で出現した。

傍観者から運動組織者へと転化しはじめた北区住民は、いまだ小規模ながらエンプラ闘争時の佐世保市民と同じ役割を担いつつある。市民が警棒による負傷にもめげず、機動隊の前にたちだかつ闘う学生・労働者部隊を防衛したことに集中的に表現されたといえるであろう。

三・八闘争に引き続き、三・二八闘争を提起した自治会共闘は、大阪市大を中心とする大阪部隊、岡山・島根を中心とする中国部隊、そして京都、兵庫、九州から民学同関西部隊百数十名を中心に、埼玉理工自治会、北大を含め三百名の戦闘的学友を結集し、東大駒場での決起集会後、全員ヘルメットで装備し、自治会旗、民学同旗をはためかせながら、六時、柳田公園の全国青年学生集会に合流した。そして各地からの報告と二十三日に結成された野戦反対共闘会議議長大塚氏の挨拶をうけ、全員で野戦闘争を最後まで闘うことを確認した。

七時すぎ公園を出発した各挺団は、機動隊によって分断された。

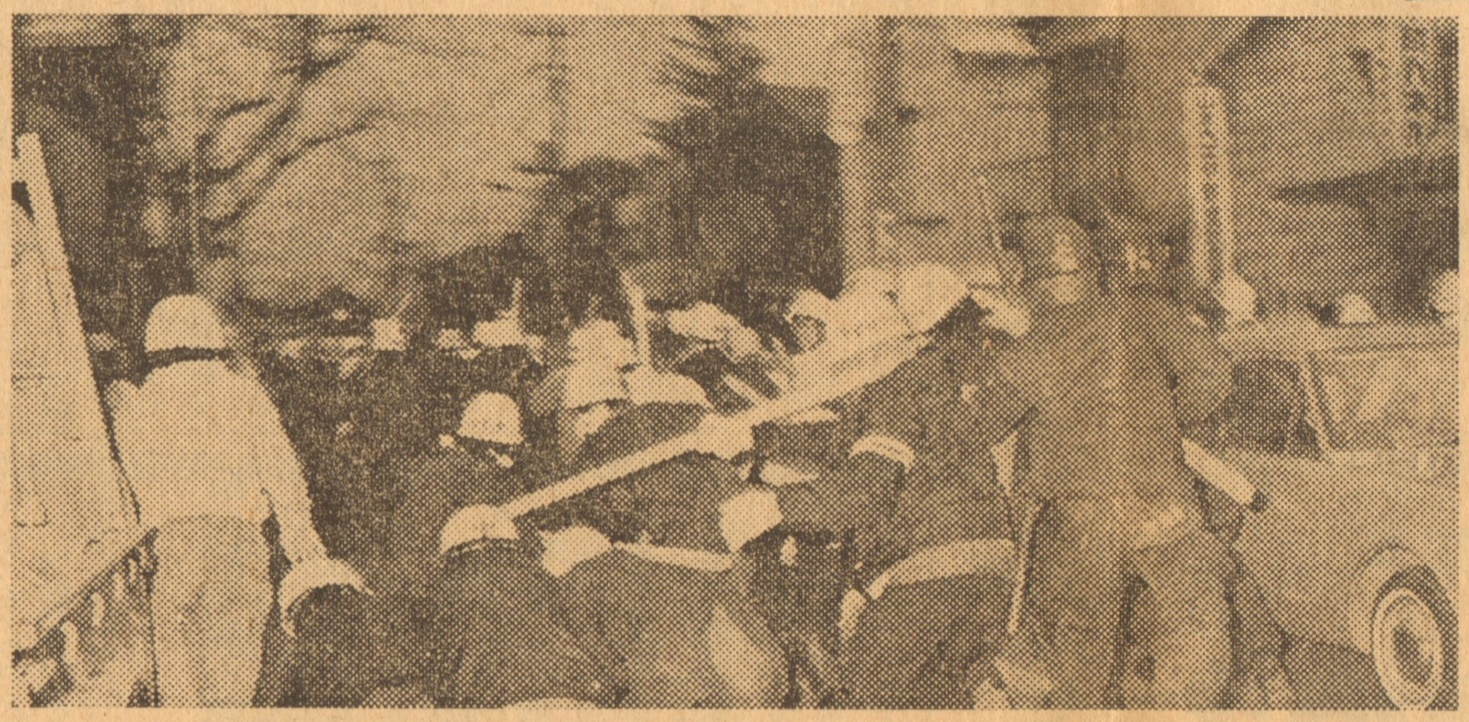
「棍棒」戦術で先頭の中核派が、王子駅前で粉砕され、自治会共闘は先頭となりゲート前に到達し、坐りこみ集会を展開しようとした。しかし機動隊はジュラルミンの盾、ナチス棒で集中的に指揮者、先頭部隊に襲いかかり、重傷二名を含む多数の負傷者を出した。しかし自治会共闘部隊は、隊列を再度整え、ゲート前に殺到し、そこにいた反戦青年委員会の労働者、そして意識変革されつつある地元住民と共に、千名のすわり込み抗議集会をかちとった。市民は戦闘的部隊を防衛するのみならず、かなりの部隊がすわり込み、そして市民が連帯の闘う挨拶を行なった。約一時間余展開した坐わり込み集会を十時に解き、板橋駅で総括集会を開き、直ちに法政大に戻り、二十九日以降の闘争体制確立の粘り強い諸準備を全員で行なった。

自治会共闘部隊は、ベトナム全面参戦国化阻止、侵略拠点粉砕の当面の環を、野戦闘争に設定し、諸闘争を闘ってきたが、さらに三・三一市民共闘、四・一反戦、四・八北区反対共闘の連続的闘いに全力をあげて取組み、激動の七〇年アジア核安保粉砕闘争を真に担う全国学生自治会共闘七月結成に向け、全力をあげて闘い抜くであろう。

学生が強力な行動
28日 民学同など全国から結集

させることである。王子野戦病院開設阻止闘争の発展は、首都圏におけるベトナム反戦・安保破棄闘争を全面化する当面の環にほかならない。

ベトナム危機とドル危機にふたつながら直面してしまっている帝国主義は、根底からぐらつきはじめている。連続的闘争の尻上りな高揚によって、ベトナム戦犯佐藤反動内閣に痛打を！



3.8抗議行動で機動隊の弾圧をうける学生

民学同大会が成功
右翼分裂主義者は脱落

民主主義学生同盟第九回大会は三月二十六、七の両日開催され圧倒的成功のうちに全日程を終了した。大会参加同盟員の白熱した創意的討論の末、次の三つが決定された。①七〇年安保を闘い抜く（阪大派）によってデッチあげられた「民学同第九回大会」なるものは、みじめな茶番劇に終わった

一部右翼日和見主義分子は七〇年戦線からの後退、脱落の道を組織内民主主義の全き破壊によって選択した。第九回大会によって築かれた地歩は、激烈な安保前段第二波闘争によって急速に打ち固められつつある。大会の翌日から展開された、王子野戦現地闘争に関西だけで百五十名の結集がかちとられ、全国自治会共闘の指導的中核たる役割を果した。一点の事実は、百の説法より説得的である。

ベトナム反戦、沖縄B52撤退のスローガンを掲げ、全国的拠点撃破闘争に雄々しく跳躍を開始した第九回大会路線は、民主主義学生同盟の戦闘的伝統を受け継ぎ、七〇年安保を担うヘゲモニーの思想は脈々と流れていることを明らかにした。

「当面の七〇年安保闘争を担う不屈の戦闘的政治同盟を建設せよ！」（大会メインスローガン）を推進する強力な全国指導部が選出された。③3月26～31、王子野戦闘争を突破口とした四、五月行動方針が採択された。

今大会は、民主主義学生同盟の歴史に残る重大な転換の出発点となり、全同盟あげて七〇年戦線への総進撃を開始する画期となった。今大会は、ドル危機、ベトナム危機が重層しながら世界危機を段階的に深化させつつある「危機と反動の時代」を背景に、七〇年日米階級同盟の再編に真向から打決する姿勢が一貫して貫ぬかれた。羽田、佐世保闘争によって切り拓かれた日本学生運動の新たな地平をさらに大胆に推進する真のヘゲモニーたらんとする強固な意志統一がかちとられた。実質、形式ともに成立した第九回大公の偉大な成功によって、一部分派集団（阪大派）によってデッチあげられた「民学同第九回大会」なるものは、みじめな茶番劇に終わった

一部右翼日和見主義分子は七〇年戦線からの後退、脱落の道を組織内民主主義の全き破壊によって選択した。第九回大会によって築かれた地歩は、激烈な安保前段第二波闘争によって急速に打ち固められつつある。大会の翌日から展開された、王子野戦現地闘争に関西だけで百五十名の結集がかちとられ、全国自治会共闘の指導的中核たる役割を果した。一点の事実は、百の説法より説得的である。

ベトナム反戦、沖縄B52撤退のスローガンを掲げ、全国的拠点撃破闘争に雄々しく跳躍を開始した第九回大会路線は、民主主義学生同盟の戦闘的伝統を受け継ぎ、七〇年安保を担うヘゲモニーの思想は脈々と流れていることを明らかにした。

風信旗

日本共産党（日本のこえ）は、最近全国会議をひらいて、名称を変更した。日本共産党をはずして、「日本のこえ」だけたという意味でその評価は確定した▼三月十七日に三派が成田に集中している留守をねらって、日本共産党は王子野戦病院反対の整然たるデモを行なった。米原いたるの選挙事前運動宣伝カーを先頭に、三派批判をやりながら、野戦病院前の通りにさしかかった時、